

中國出土資料學會
平成20年度第3回例会

日時：平成21年3月14日(土)
受付開始 12:30～
研究報告 13:00～17:00
会員總會 17:00～17:30

場所：山梨県立大学飯田キャンパスA館6階サテライト教室
(〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1)

会場へのアクセス：JR中央本線甲府駅下車、南口山梨交通バス乗車場4番線から中央病院行き(または中央病院経由敷島営業所行き・中央病院経由竜王駅行き・長塚行き・長塚経由敷島営業所行き・飯田経由敷島営業所行き)バスで10分、「飯田三丁目」下車、徒歩7分。甲府駅南口から徒歩20分。

山梨県立大学には二つキャンパスがあります。タクシーでお越しの場合は「飯田キャンパス」、または「もとの県立女子短期大学」とご指定ください。

報告 川又 正智(国士舘大学教授)
発表題目：馬利用史の未解決問題
発表概要：後日、ホームページで公開します。

報告 陳 文豪(彰化師範大學歴史學研究所副教授兼所長)
発表題目：簡帛學理論建構省思舉隅
発表概要：簡與帛在中國是紙未普遍做為書寫用具之前的主要書寫載體。19世紀末20世紀初開始大量出土，尤其是簡牘被視為四大新史料之一，成為研究中國古代史的重要史料。不過，相較於「甲骨學」、「敦煌學」，簡牘成為一門「學問」的時間很晚，大約在20世紀70年代才逐漸形成。
隨著簡牘出土日衆及帛書的發現，「簡牘學」的發展又有「簡帛學」之稱。本文討論的重點之一是「簡牘學」及「簡帛學」二種稱呼何者為正確？其次，由目前所見的「簡牘學」或「簡帛學」的通論性著作來看，多數屬於簡帛學研究史性質，在理論的建構上仍顯不足，因此做為一本建構「簡帛學」理論的著作，它的內容應該包含那些？最後就簡帛學研究史的發展來檢討，探討簡帛學理論的建構和中國傳統文獻學的關係。

報告 胡 平生(中国文化遗产研究院)
発表題目：簡帛辨偽通論
発表概要：中国の出土遺物には昔から現代に至るまで偽物がつきものであった。それは今日の簡帛についても例外ではなく、真偽を見分けることは必須の作業となっている。本発表では、偽物の具体的な事例に則して、その状況を説明し、真偽を弁別するためには、(1)文字・文法・文理、(2)質材・形制、(3)出所・遍歴、が基準となることを示したい。(発表者から送られたフルペーパーをもとに事務局で作文しました。)

参加費(資料代)500円
非会員の来聴を歓迎します

主催 中國出土資料学会
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学文学部 池澤研究室
Tel 03-5841-3767(直通)
Fax 03-5841-3815
E-mail syutsudo@l.u-tokyo.ac.jp
郵便振替口座 00180-5-13124

